国労岡山

2022年2月28日　No.5531
発行者　天野伸行　編集者　片岡有宏

第144回拡大地方本部委員会発言要旨

JRの安全・サービスを守り公共交通の使命を果たすように運動を進めよう

佐藤委員（福山地区）

若い社員が物価が上っているため、賃上げを勝ち取らなければならないと言っている。要求を満額獲得するためには、ストライキで闘わなければならない。姿勢を見せる事で他組合員の共感が得られるのではないか。

通教の試験は、勤務時間内にするべきだ。組織拡大は諦めずにやっていく。

倉敷駅で退避不良があり、団交で会社が対策として番線を認識できる表示板をするとしたのに、現在もやっていない。

太田委員（倉敷地区）

駅の無人化・大幅減便に対して反対しているのは、国労だけです。

分会大会を開催し、駅の無人化・支社の統合などについて話し合い、組合員全員で共有化してきました。ＪＡＬ物販については解決するまで取り組んで行きたい。地域各労組と協力しあって今後も頑張っていきたい。

将来を悲観して退職していく社員がいる。グループ会社も厳しくなっている。国労は、働く人たちの問題点があれば必ず交渉し、職場に返していくが大事だ。

そして、福山電気区暴力事件の経過を話された。

亀高委員（岡山工務）

分会の取り組みとして、

執行委員会は定期的に開催してきた。今後は全員集会をやっていきたい。組合掲示板を使って他組合員に情報を伝えている、今後も積極的に活用する。

組織拡大は動かなければ拡大できないので動いていかなければならない。

駅の点字ブロックが、ホームの端過ぎて転落するのではないか。

書記長集約

安全輸送の確立、人減らし合理化反対、労働条件改善・権利確立

「駅の無人化」「運転区間の短縮・減便」「ワンマン運転の拡大」「ローカル線の廃止に向けた動き」など、効率化と要員削減が強行されている。沿線自治体では、昨年の運転区間短縮の見直しを求めて「要望書」を提出しています。23道県知事が「鉄道事業法」の見直しを求めて国交省に提出、ダイヤ改正における減便に対しても13市町が「要望書」を提出している。

地本は、自治体の意見・沿線住民・利用者の声を聞きながら、ＪＲの安全・サービスを守り公共交通の使命を果たすように運動を進めていきます。

2022年春闘

地本として、ストライキ戦術配置を要請しています。低額回答がされている状況を打破するためにも、今までとは違う行動が必要である。岡山から奮闘していく態勢をつくっていきたい。

組織拡大

国労を残し発展させていくことを精一杯取り組むことを、頑張ることなくして展望はありません、その頑張りが必ず今後に生かされると考えます。

国鉄労働組合岡山地方本部　メールアドレス　086-233-0511　JR3400　nru.okayma@gmail.com